

図書館情報学に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. オトレ (P. M. G. Otlet) とラ・フォンテーヌ (Henri La Fontaine) は、『図書館学全教程試論』を記したが、この著作は図書館学を学問とした最初の著作とされる。
2. パニッツィ (Antonio Panizzi) は、図書館員養成のためにコロンビア大学に図書館学校を設置したが、これが米国初の図書館学校である。
3. シュレチンガー (Martin W. Schrettinger) は、ドキュメンテーションと情報工学を図書館学に統一し、新たな学問領域としての図書館情報学を確立した。
4. デューイ (Melvil Dewey) は、「図書は利用するためのものである」を第一法則とする「図書館学の五法則」で、近代的な図書館学の根本原理を提唱した。
5. バトラー (Pierce Butler) は、『図書館学序説』において、図書館学の学としての構想を展開し、図書館学への科学的手法の導入を主張した。

正答 5

マイクロ資料に関する次の記述のうち正しいのはどれか。

1. マイクロ資料は、記録密度が高いため、拡大装置がないと利用できない。
2. マイクロ資料は、劣化しやすいので、50年を超えての長期保存には適していない。
3. マイクロフィルムは、画質が低いので、原資料を忠実に再現できない。
4. マイクロフィッシュは、規格が統一されていないので、効率的な保管ができない。
5. カートリッジ式マイクロフィルムは、シートフィルムをカートリッジに収納しているため、コマの自動検索ができない。

正答 1